

島前高校だより

燃えた 学園祭

昨年引き続き、「生徒が自主的に」文化的なものを取り入れた「文化祭になるよう生徒会をはじめとして、準備してきました。」

今年昨年までと変わり、学園祭の七月実施や「文化的なもの」として、クラスごとの合唱を行ったり、学年をまたいだブースの出し物など新しい企画も多くみられました。実施時期を早めたことで準備期間も短く、そのため生徒会が中心となり物資の購入や関係機関との調整など例年以上に忙しい毎日を送りました。その分、学園祭を終えたときのみんなの充実感や達成感も大きかったと思います。



今回の学園祭は、「突破」を越えろをスローガンに、生徒一人ひとりが主体的に活動しました。今までの学園祭とは大きく異なり、「子どもふれあいコーナー」や「子ども議会」高校生ver.、「推理ゲーム」、「手作り品販売」など新しい取り組みを加え、「喫茶店」や「ライブ」なども創意工夫が見られました。生徒会で企画、運営を行った今回の学園祭は、非常に充実したものととなりました。学園祭が成功したのも、先生方のサポートや保護者の皆様のご支援があったからだと



昨年からの目指している生徒主導型の学園祭が出来てきているのではないかと考えています。来年はさらに飛躍して、展示や合唱など、みんなの前で発表できるようなものが出て来ると良いと思います。皆さんお疲れ様でした。

と思います。来年はさらにより学園祭を創り上げてくれることを期待しています。ありがとうございました。生徒会長 大脇 政人

〒 684-0404
島根県隠岐郡
海士町福井
1403
TEL
08514-2-0731
Fax
08514-2-9050
ホームページ
http://www.sh
imanet.ed.jp/
~dozen/
Eメール
dozen-01@shi
manet.ed.jp
校訓
真理・理想・
進取

オープン スクール



八月十九日(金)に、本校において島留学オープンスクール2011を開催しました。当日は、全国から22組54名、昨年の約3倍の参加者がありました。実際に島前の地を自分の目で確かめました。学校の雰囲気を感じていただき、寮の雰囲気を感じていただき、名が、「入学したい」、「前向きに検討したい」と回答しました。

- ・ 当日の日程
- ・ 校長挨拶 (学校概況説明含む)
- ・ 入試概要・寮費等補助説明
- ・ 高校魅力化紹介
- ・ 質疑、応答
- ・ 授業、施設見学
- ・ 寮説明、寮内見学
- ・ 寮生一問一答(メッセージ)
- ・ 昼食(食事をしながら寮生との懇談)
- ・ 部活動見学
- ・ 「ヒトツナギ」発表(地域国際交流部)
- ・ 個別の入試・入学相談
- ・ 「夢探求」体験講座

※オープンシヨンプア(明屋海岸、隠岐神社↓希望者)

参加してくださった生徒、保護者の感想は以下の通りです。
○パソコンのホームページで見ると実際に来てみて分かることがたくさんあった。
○教育は「人」なりです。島前高校には一生の恩師になっていただけそうな先生が多いと思いました。

○在校生の皆さんや先生方の親切で丁寧なお話を伺い、想像していた学校生活よりも実際に何って、見て、聞いて、感じたものの方が大いに好印象でした。古き、良き時代の物が温かく継承されている感じを受けました。

○ごく普通の学校に入学させるよりも学べる事が多く、社会人基礎力も身につく社会のために大人への一歩を手に入れることができる。
○大自然に恵まれた環境の中でのびのびと高校生活が送れるのです。



勉強合宿

八月一日から八月五日までの五日間にわたり、二・三年生希望者を対象として出雲市のサンレイクで「勉強合宿」を開催しました。今年度は、三年生九名と二年生二名の参加がありました。

この合宿では、朝八時から夜十一時半まで補習授業・自習で勉強漬けの五日間を過ごしました。合宿後のアンケートには「初めは長いように感じるが、終わってみたらあつという間だった。」や「家にいるより勉強合宿での机に向かう時間がはるかに多くてついときもありませんでしたが、自分から机に向かうという姿勢が身についたと思うのでいい経験になりました。」といった感想が見られ、主催した進路指導部としても充実感のある五日間でした。

また、二年生二名は八月三日から同じくサンレイクを会場として行われた県教育委員会主催の「夢実現チャレンジセミナー」へも参加しました。他校生徒と一緒に学び、様々な刺激を受けて帰りました。この経験をもとに「夢実現」に向けて頑張ってくれると期待しています。

三年生はこれから本格的な受験シーズンへ突入しますが、学校はもとより、地域や家庭でもご支援をお願いいたします。

検定合格者

全国商業高等学校協会主催
第44回ワープロ実務検定試験
二級合格 三年 澤野良子

レスリング 夏合宿



八月七日から十三日までの約一週間、本校を会場に「第一回全国レスリング合同強化合宿」が行われました。

全国から13団体(環太平洋大学、至学館大学・高校「旧中京女子大学・付属高校」、法政大学、早稲田大学、明治大学、日本体育大学、東海大学、日本大学、徳山大学、国際武道大学、AAC C、加茂クラブ、浜田クラブ)総計64名の参加を得、島前高校生と島前地域のチビツナギレスラーと共に強化を図ることができました。

周りは海に囲まれた自然豊かな中、レスリング専用道場にレスリングマットが二面、練習場に近くて施設が整っている寮、朝早くから美味しい食事を用意していただいた古濱先生率いる女子バレー部員、そして、応援していただいた地域住民の方々、素晴らしい環境の中で練習出来たことに、監督・選手の皆さんは大変喜

んでおられました。

今回の合宿参加者の団長である法政大学の栗田先生、練習を中心的に指導された本県出身で世界選手権二位、アトランタオリンピック七位の環太平洋大学の嘉戸先生は、「今回の合宿はONとOFFの切り替え」をテーマにご指導されておられました。選手たちは、容赦のない練習メニューに必死になって取り組み、練習を終えたら、即、海に飛び込んだり、魚釣りをしたりと、まさにONとOFFを切り替えて取り組んでいました。

最終日のバーベキュー交流会では、各チームの自己紹介や有志で結成された地元バンドの演奏等で、盛り上がりあつたという間の二時間でした。中には、島前に住みたいという選手も出てきました。来年は、全日本合宿をずらしてでも、ほとんどの選手が参加できるようにしたいと指導者の方々がおっしゃられました。

また、この合宿の記事を地元新聞社を始めとして、日本レスリング協会のホームページに「第二の虎の穴、隠岐島前」というテーマで大きく取り上げて頂いたり、



その後の全国大会でも多くの先生方から声をかけていただいたりしました。

このように、この合宿を通して島前地域を全国にPRすることができました。来年度もこの合宿を継続させ、島前がレスリング合宿のメッカになるよう定着を図っていきたく思っております。今後ともよろしくご支援をお願いします。

ヒトツナギ



震災の影響により延期しておりましたが、第二回ヒトツナギツアーを八月七日から八月十一日の五日間で実施しました。

熱意溢れる三年生スタッフ二名に、個性派揃いの一年生五名が加わった新チーム。舞台も冬から「夏の島前」へと大きく変わりました。ヒトツナギは島の魅力を「人」と考え、その人と人を繋いでいく特別な旅。その思いを少しでも残しながら、新メンバーそれぞれ思いをどう出していくかが今回の課題でした。

期待と不安を胸にやってきた参加者を、別府港で迎えて旅がスタート。前半の宿泊地は廃校

になった美田小。タイムスリップしたような空間に参加者は興奮気味。そして、そんな中でスタッフと島の方々の手作り料理をみんなで食べているうちに、緊張はほぐれていきました。「指令」企画で島前内を歩き回り、海で泳ぎ、隠岐そば作り・陶芸、そしてホームステイで島の生活をさせていた。そんな体験を重ねることに、心で感じ、心が繋がりが深まってきました。

別れの日前日。開発センターで行われた、お世話になった島の人へ「恩返しをする」だんだんパーティー。参加者とスタッフが一緒になって企画をしました。それぞれがこの旅での思いを語り、中には感極まって涙するシーンも。

最終日、本土へ戻るフェリーの前でお別れのセレモニー。全員が、初日とは違う顔をしていました。今回改めて感じたのは、この旅は島の方々の協力あつてのもの。助けていただいたみなさんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。



《ヒトツナギを終えて、感想》
旅中に、島前地域の皆さんに沢山お世話になって、自分の知らない島前を知ることが出来ました。色んな人と話せましたし、久しぶりに会った人もいたので、凄く楽しかったです。出来ればま

た来年、参加したいです。(島内参加者)

五日間で島の人の温かさや愛を沢山貰いました。料理の材料を提供してくれた人や料理してくれた人、このヒトツナギを考えたい人、支えてくれた人...いっぱいの人に感謝です地元でも出会いはあるけど、ヒトツナギみたいな出会いは絶対ないです。これから、この出会いとつながりを大事にしていきたいです。最後、めっちゃ泣きそうだった。(島外参加者)

ヒトツナギが終わったときの達成感は何となく無い!辛い事もあつたし、やめたくなる時もあるけど、でもそんな時助けてくれる島の人や仲間がいたおかげで、最後までやりぬくことが出来た!その時ほど「人」に感謝したことはない。島の魅力を本当に知りたかったら、やっぱりヒトツナギが1番いい!2年間もヒトツナギに関わったことを誇りに思う。(高校生スタッフ)

ニククラス化 実現

本校は、平成二十年四月から全学年一クラスとなりました。しかも、その年は二十八名しか入学せず、このままでは、島前高校がなくなってしまうという強い危機感から始まったのが、「島前高校魅力化プロジェクト」でした。

島前高校存続のためには、高校の魅力化・活性化を図ることが必要であるという共通認識のもと、高校と地域が一体となった取り組みを進めてきました。平成二十二年六月には、高校と連携した公営塾「隠岐國学習センター」を開所し、常に高校と連携をとりながら生徒の学習サポートが行なえるようになりました。もともと、島前高校では、少人数指導ができるという利点

を生かし、きめ細かく丁寧な学習指導・放課後等の個別指導を行なっていました。さらに休日や盆・正月も返上し生徒の指導にあたりました。この教員の情熱、生徒の頑張り、地域のサポートが一体となり、この三月には島前高校始まって以来の素晴らしい大学合格実績をあげることができました。

また、島内の生徒によい刺激を与えてくれる島外からの生徒に対しての「寮費補助制度」を地域が創設し、島外からの生徒確保に成果が上がりました。

四月からは、特進コース・地域創造コースという新しい二コース制のカリキュラムを始めました。地域創造コースでは地域の講師を招き、地域の課題解決を図る学習・社会性を育成する学習などを行っています。

このような取組で、島前内中学生の入学率が向上していること、島外からの入学生徒が増加していること、今年度の島前内中学卒業者が多いことなどから、島根県教委は平成二十四年度の入学定員を二クラス八十名とすることを発表しました。これで平成十七年度以来七年ぶりの2クラスが復活しました。このプロジェクトが始まった時、誰もが遙か遠い夢だと思っていた二クラス化が遂に実現しました。今後は、島内外の生徒確保のためのPR活動の更なる充実と、二クラス維持・継続のための仕組み構築が必要です。

